

晴れ舞台 新様式

道内大学は卒業シーズン真っ盛り。新型コロナウイルスの影響で昨年はほとんどの大学で式典が中止されたが、今年は開催する大学が多く、感染に気を付けながら晴れの門出を祝おうと、それぞれが工夫を凝らしている。



卒業式でアクリル板越しに学位記を読み上げる北海道科学大の渡辺泰裕学長(右)(写真はいずれも18日、札幌文化芸術劇場で)

大学 卒業シーズン

仮想空間で授与式

18日、札幌市中央区の札幌文化芸術劇場で行われた北海道科学大の卒業式では、スマートフォン上の仮想空間で、学位記の授与が体験できるアプリが導入された。

昨年は中止に追い込まれた同大の卒業式。今年は、学科長から一人一人に学位記を手渡す従来のスタイルを見直し、代表者以外は郵送するやり方に切り替えた。アプリは、「それでは味気ない」と学生や院生が企業と共同開発したという。スマホなどで自分の顔を撮影

すると、画面内に分身キャラクターが作成され、学科長らから学位記を手渡される映像が流れる仕組みだ。企画を考えた学生団体「Q-POINT」代表で大学院1年の春井海翔さん(23)は「昨年の自分の卒業式は中止になったが、後輩たちには寂しい思いをさせたくなかった」と狙いを語った。

式短縮、ライブ配信

17日に行われた小樽商科大の卒業式も、学科ごとに計4回に分けられた。さらに、記念撮影や同窓会の紹介を省略し、例年約2時間にわたって実施していた式を約30分にまで短縮した。25日に開催する北海道大では、出席する学生を例年の約2000人から各学部代表者13人に限定。出席できない学生向

未来デザイン学部を卒業した中村瑠希さん(22)は「最新の技術が導入され、最後までこの大学の特色を感じられた」と喜んでいった。同大ではこのほか、式典を午前と午後の2部制にし、卒業生計955人が「密」にならないようにした。会場の座席も、貼紙紙をして間隔を空けるようにした。

けに、式の様子をライブ配信する。

19日に実施された札幌学院大の卒業式は、学内でクラスター(感染集団)が発生したため急きょ、各教室で行う方式に変更。学生は教室内で教員から学位記を受け取った。同大の担当者は「予定した形ではなかったが、学位記を直接渡すことができ、安心して居る部分もある」と話した。



仮想空間で学位記授与を体験した北海道科学大の卒業生

就職内定率90.9%

前年同期比1.7%減

文部科学省と厚生労働省が19日に発表した今年度卒業予定の大学生の就職内定率(2月1日現在)は、北海道・東北地区で90.9%と前年同期を1.7%下回った。

調査は全国の国公私立大62校計4770人を対象に行われ、うち北海道・東北地区は8校計500人。厚労省の担当者は「新型コロナウイルスの影響が大きかった業種で採用数を減らす動きがあったことも、内定率減少の一因と考えられる」とした。

北運河観光の可能性を探る

市民セミナーに40人

小樽市の北運河地区の歴史を学ぶ市民セミナーが21日、小樽港湾センター(港町)で開かれた。市民ら約40人が参加し、講演した小樽商科大の高野宏康学術研



北運河の魅力を受く市民セミナーで講演した元市総合博物館館長の土屋周三さんと小樽商科大の高野宏康学術研究員(左)

究員(46)と元市総合博物館館長の土屋周三さん(73)が「地域の歴史を活用しながら

らエリアを発展させてほしい」と訴えた。

市民団体「北運河の会」(半田善行会長)が企画。北運河は小樽運河(全長1140m)のうち北側の470m。周辺には解体検討中の市指定歴史的建造物の北海製缶小樽工場第3倉庫な

とがある。高野研究員は、第3倉庫が運河の南側と北側の中間地点にあり一周遊覧光における拠点となりうることを指摘。土屋さんは、近くに重要文化財の旧日本郵船小樽支店(色内3)があることも例に挙げ、当時の物流の中心地だったことが分かる。市民が歴史を知ることが観光振興につながる」と力説した。(鈴木孝典)